

## (6) 小児がん医療の充実と長期的支援

---

### 【現状と課題】

- 「がん」は小児の病死原因の第1位です。小児がんは、成人のがんと異なり生活習慣と関係なく、乳幼児期から思春期、若年成人まで幅広い年齢に発症し、また希少で多種多様ながん種からなります。
- 平成24年9月現在、大分県の小児慢性特定疾患医療受給者の中で把握している小児がん患者は88名です。
- 小児がんの強力な治療による合併症に加え、成長発達期の治療により、治癒した後も発育・発達障害、内分泌障害、臓器障害、性腺障害、高次脳機能障害、二次がんなどの問題があります。
- 診断後、長期にわたって日常生活や就学・就労に支障を来すこともあるため、患者の教育や自立と患者を支える家族に向けた長期的な支援や配慮が必要です。

### 【施策の方向】

- 全国15か所（平成25年2月現在）に整備された小児がん拠点病院と連携をとりながら、小児がんの医療体制を整備する必要があります。

### 【個別目標】

- 拠点病院の相談支援センターにおいて小児がん拠点病院と連携をとりながら、小児がん患者の療養を支援します。